



少し困った出来事が・・・③

前号(第24号)の学校だより「須留が峰」に記載したような流れで指導をした後で、最終的には当事者どうしが顔を合わせて話し合うことが理想です。しかしながら、場合によっては、この時点で一連の指導を終えるケースもあります。C が、「先生に聞いてもらえたからそれで十分です。」と言って、それ以上の対応を求めないこともあるからです。いじめ対応の大原則は、“被害者(傷ついた生徒)の意向に沿うことが第一”であり、被害者の意向を無視してそれ以上の対応をとることは少ないです。これは、過度な対応をとることによって、余計に生徒どうしの溝を深めることがあるからです。

また、事案の程度にもよりますが、「いじめ」として対応する以上、そのことを加害生徒の保護者に連絡をして、一連の出来事について知っていただくことも大切になってきます。それは家庭での追指導をお願いしたいからです。ここで、学校と保護者とがしっかりとスクラムを組んで対処すれば、生徒は自分の行動を振り返り、自らの悪かった部分をしっかりと反省するものです。そして、事態は大きく好転していきます。ところが、学校からの連絡に対して、追指導はおろか、我が子をかばうがあまり、他生徒批判や学校批判に転ずる保護者が少なからずおられ、学校現場にいる者にとっては頭の痛いところです。これでは、生徒は自分の過ちに気がつかず、何度も同じようなことを繰り返してしまいます。

さらに、このような生徒間トラブルに、SNS が絡むことが近年多くなってきました。そうすると、当事者の数が大きく増加すると同時に、教師の目が届きにくく、指導が極めて困難になります。昔の生活指導に比べて対応が難しくなっている一因がここにあるのです。スマートフォン等は中学生にとって本当に必要なものであるかをよく考えた上で、かりにどうしても所持させるのであれば、我が子の利用状況について確実に把握したり、家庭内ルールを確立したりすることが保護者の責務であるとこれまで述べてきたのはそういうわけです。

学校に生徒をお預かりしている以上、生徒間トラブルはいわば付きものであり、そのひとつひとつに丁寧に対応していかなくはいけません。また、それがいじめ事案と判断される場合はなおさらのことです。もしかしたら、“軽微なことを大げさに対応しなくても”と思われるかもしれませんが、今の時代はそういうわけにはいきません。どうか、学校と家庭とが一体となって解決、あるいは未然防止を図っていきましょう。(おわり)



国民スポーツ大会優勝

今秋に開催された第79回国民スポーツ大会（旧国民体育大会：国体）において、養父中学校3年生の中山駿汰選手が優勝という快挙を成し遂げました。種目は「馬術競技」で、その中でも「少年二段階障害飛越競技」と呼ばれるものです。詳しく話を聞いてみますと、12個ある障害を2回に分けて飛越し、その正確さ（障害を落とせば減点）や速さを争う競技で、各都道府県から集まった14歳～18歳の選手たち25名の中で見事に第1位に輝いたとのことでした。今回、共に戦ったのは中山選手が所有しているアンフォロー号（オス8歳）という馬で、愛馬とともに成し遂げた快挙に満足そうな表情で写真に収まってくれました。中山選手が馬に乗り始めたのは6歳の頃と言い、たまたま通りかかった乗馬クラブで馬に乗せてもらったのが馬術に惹かれたきっかけとのこと。人生とは何が分岐点になるか分からないと思うのと同時に、今後のさらなる活躍が楽しみであると思いました。中山駿汰選手、アンフォロー号、優勝おめでとう！



但馬中学校新人戦（部活動）の結果

但馬中学校新人戦が、10月4日（土）より各会場で行われました。以下が各種目の結果です。

◆ソフトボール 準優勝（県大会進出）※八鹿青溪中との合同チーム

養父・八鹿青溪 3-22 日高東

養父・八鹿青溪 15-4 夢が丘・豊岡北



◆ソフトテニス

団体戦 予選リーグ 養父 0-3 日高東 養父 0-3 和田山

※予選敗退

個人戦 上位進出者なし



◆バスケットボール

養父 32-65 出石



◆卓球 団体戦第3位（県大会進出）

団体戦 予選リーグ 養父 3-1 香住一 養父 3-0 豊岡北 養父 0-3 豊岡南

決勝トーナメント 養父 2-3 日高西 養父 3-1 但東（3位決定戦）

個人戦 上位進出者なし



◆バレーボール

養父 0-2 八鹿青溪